

JVCKW シニアクラブの皆さんへ・・・感謝を込めて・・・

西川 誠之



昭和の東京オリンピック大会開催（1964）年に入社。

2002 年迄勤めました。近況報告いたします。

昨年 4 月まで 2 期・8 年間勤めた「流山市議会議員」を引退し、本格的に老後生活に入りました。JVC 入社以来、財務課（本社バレー部で活動）・USJVC（5 年間）・東都ビクター・貿易本部・JVC ドイツ（7 年間）・カラーテレビ事業部・アジア中近東本部を経て厚生年金基金を最後に定年退社しました。

各セクションでの在任期間は平均 5 年。家族 5 人での 7 年間のドイツ務めを含めて海外生活は、息子 3 人に良い経験だったと感謝しています。

2002 年退職直後に開催された「FIFA ワールドカップ・日韓大会」で、ドイツチームの警備担当通訳を務め、ブラジルに負けましたが準優勝を勝ち取り、カーン主将・選手ともども手を取りあい、抱き合って大統領主催の準優勝会に出られたことがいまだに心に焼き付いています。本当に Lucky でした。

このために退職直後にビクターの先輩からの外資系の再就職先の推薦をいただいたのですが、ワールドカップを優先しお断りしました。自分では十分納得した会社人生でした。

その間、米国赴任前に短期間でしたが母校早稲田大学のバレー部コーチ、ドイツから帰国後、サッカー少年（息子 3 人のうち 2 人）が参加した地元流山市の少年サッカークラブの応援団長・会長を 15 年以上務め、地元の自治会役員も務めていました。

現在の流山市長・いざき義治氏の最初の市長選挙（残念ながら惜敗・落選だった）以降 5 期目に挑戦中の現在まで 25 年以上に渡って支援しています。彼の 2 回目の市長選挙再挑戦の時にいざきさんから、彼にとっては弱い東部地区（小性の居住地）対策として既に定年退職していた自分に「市長はいざき・市議は西川」と唱って戦いましょうと市議選への出馬を勧められました。退職後でもありその気になり家内を説得して選挙用写真など準備しましたが、若干の行き違いがありその時は出馬断念。いざき市長当選後も彼のサポーターの会の中心で応援していました。出馬断念から 8 年、自身にケジメをつけるべく、改めていざき市長に市議選出馬の意思を伝え「69 歳でも出馬する」と申し出で、お陰様で 2 期連続当選を果せました。

振り返ってみると、何故市議会議員に？ですが、現市長の応援もさることながら地元選出の市議会議員がいても、所属政党の議会報の発行はあるが、選挙の時だけの活動以外何ら議員個人の議会報告があるわけでなし、ごく限られた地元民優先での活動しかしていないなど、市民不在を改善すべし・・・が決断の元でした。

自分なりに各方面にわたる分野の関係者（市民）・・・早大卒業生・市内バレー/サッカー関係者、地元自治会/老人会/学校関係父母会・流山シニアクラブ及びJVC-OBの方々に、市の動向・市長の政策・自分の改革/改善訴求点を報告するとともに、さらなる進展を模索するために市民の意見を聴取して実施・結果報告することに的を絞りました。

当選後は年4回・毎議会での一般質問はMUSTと心得、終了後にその都度「ほねぶとレポート」を発行配布。本来なら毎年4回の議会開催・8年間で32議会となりますが、病気入院・スランプ他で未発行もありA4・B4複数ページで通算28号発行しました。

そしてその周知・報告活動と共に、市内3地区（東部2地区と平和台地区）での報告会をこまめに実施。毎回各会場で参会者は数十人の方々でしたが、報告・意見交換を実施できたことが、約束を果たせたなという自分の感慨です。

市政にいろいろと提言し、改良・新規試行を実現出来ましたが、自分一人だけで実現できたのではないので、ここでは内容については省略いたします。

その間にJVCシニアクラブ会員として、事務局からのご依頼で、総会の際に退職後の新たな活動の方向付け・アイデアの一つに「地域活動…市（町）議会議員への立候補」を取り上げ、それを実現するための準備活動についての経験談をお話したことがありました。

- ① 退職前からの地域での活動・・・父兄会・自治会・子どもクラブ（スポーツ・文化）等得意な分野での活動を心がけること。
- ② 大小を問わず地元の活動に積極的に参加し、中心的立場での活動をすること。
- ③ 地域の方からのもろもろ相談あればいつでも相談に乗るという前向きな対応。

以上が事前準備で、立候補の目的は・・・私・西川の活動のモットーは「子どもたちに笑顔を！シニアに安心を！」にすべて集約して訴求しました。

- ① 地元の皆様のご意見・ご意向を市長の政策にいかんにかして実現することの約束。
- ② 市民の皆様の身近な不具合・不便さあればその是正に努める。
- ③ 他市との比較を含め、身近で実現すべき改良点あれば実現可能への働きかけ・実施。
- ④ 常に地元の「子どもたち・高齢者のために！」の配慮を打ち出すことを心がける活動の訴求。

その背景には、「第2・第3の人生の活動の目的」を地元の皆さんの望んでいる、ないしは不足していると感じているPOINTの改良・前進を果たしたいという訴えをしっかりとすることでした。

昨年3月開催の市議会が最後となりましたが、計らずも11月に「市政功労賞」を受賞でき、受賞者代表としていざき市長より表彰状を受け取ることの栄誉を受け、締めくくりとなりました。

市民の皆さんに感謝です。

写真は、表彰状授与式の模様  
広報ながれやま令和元年11月  
21日号からコピー



現在もその延長線上にあり、自治会の役員を未だに継続しており、少年サッカークラブ顧問として見守り、流山稲門会の創設者・顧問として、また老人会活動を含め地元の方々への恩返しのため活動しております。

どこまでできるかは、心身の状態次第ですが、自分史の作成にも取り掛かっております。

議員引退を機会にJVCシニアクラブの方々にも色々ご配慮・ご支援いただきました。ここに改めてご報告を兼ねて認めさせていただきました。

コロナ騒動の最中ですが呉々もご自愛のほど願ひ上げます。

有難うございました。

完

【シニアクラブ事務局から追記】

以下の写真は、2011年4月の初選挙に臨む出陣式の時のものです。

ここから“ほねぶとオジサン”議員としての活動がはじまりました。文中にもある「ほねぶとレポート」の28号も別添するのでご参照ください。

さらに、シニアクラブHPにシニアクラブ便りバックナンバーが載っていますが、その中から23-2号（流山市議会議員選挙立候補の決意表明）、25-1号（第11回シニアクラブ定期総会で講演）、27-3号（再選を果たした報告）もご覧ください。

現在、頭髪もずいぶん白くなったようで、8年間のご活躍おつかれさまでした。引き続き地域活動にご尽力されることを期待しております。

JVCKWシニアクラブ事務局長 田代 周





1941年東京生まれ  
1964年早稲田大学卒  
東部フットボールクラブ 前会長  
流山市議当選 2期目

# 市議会 ほねぶとレポート

## 振り返ってみれば・・・

支援者の皆さん、本年で市議会議員2期8年を終了させていただきます。東部地区・向小金・松ヶ丘・前ヶ崎・西松ヶ丘・名都借の皆さんのおかげで、議員に選んでいただき、思いっきり市民の皆さんのため、市のために仕事をさせていただき、第3の人生を満喫できました。本当にありがとうございました。

我々が選挙の洗礼を受けた時2011年(平成23年4月)の本市人口は165.7千人でした(資料1)。市制スタートは1967年(昭和42年1月)流山町・八木村・新川村の合併により誕生。当時の人口は44千人。市制発足以降は人口うなぎのぼりで10万人を超えたのが1979年(昭和54年2月-1)、特に2005年(平成17年)つくばエクスプレス開通後の4年半後に転入者増加により人口増が1万人を超える状況でした。

市制発足50周年記念の2017年(平成29年1月)には、180.2千人となり、本年1月に19万人を超えました。人口伸び率は県下第1位(全国1位では?)です。本市の特徴は、長年最多だった団塊の世代(60～64歳)を、2009年(平成21年4月)に子育て世代(35～39歳)が追い抜き、人口カーブがこの2世代プラス子どもたちとを合わせ3つの山を形成していることです。2027年ぐらいまでは増え続けると分析がされており、いざき市長は「流山市に住んでよかった」をもっと、もっと。「住み続ける価値の高いまち」を目指して市長5期目挑戦されます。

資料1:流山市の人口推移

(単位:人)

年月	人口総数	自然増	社会増	年間増
平成23.3	165,037	555	955	1,510
平成24.3	166,547	384	743	1,127
平成25.3	167,674	499	1,539	2,038
平成26.3	169,712	511	2,465	2,976
平成27.3	172,688	554	3,253	3,807
平成28.3	176,451	558	3,936	4,494
平成29.3	180,945	545	4,339	4,884
平成30.3	185,829	619	3,851	4,470
平成31.2	190,299			
	期間合計	4,225	21,081	25,306

西川は2011年(平成23年4月)議員当選後・・・この時は東日本大震災の直後でした。茨城県から避難されて来られた方々も多々おられました。放射能問題も起こりました・・・西川の議員スタートはそんな時期でした。

さて議員の特権である「一般質問」とは、議員が各会期(年4回3か月ごと開催)に自ら調査・研究した懸案事項を市長への質問という形で説明・提案・実現要望することです。市行政運営上の大きな問題から市民身の回りの細かい問題まで、これは質すべき・提案すべきと判断したことをぶつけることです。機会は西川の場合は、年4回×8年間=32回×3件(1回に約3件の質問事項)=96件ぐらいの質問件数です。西川は全回登板予定していましたが、途中で3回緊急入院のため欠席。一度目は一般質問の当日に緊急入院となったこともありました。申し訳ありませんでした。

全期間を通じて、156件の質問課題を提示しました。

資料2:一般質問をテーマ別の実績件数(8年通算156件)

1位: 高齢者・弱者対策	61件
2位: 災害対策・震災対策	34件
3位: 教育・子ども関連	24件
4位: 市長他・財政策等	17件
5位: インフラ対策	11件
6位: スポーツ関連	9件

特に自分のモットー・・・子どもに笑顔を!シニアに安心を!・・・に連携する課題をいつもチェックして、質問事項とするようにしていました。高齢者対策や教育・子ども関連は重点項目であり決しておざなりに対応してはいけない項目です。支援者の多い平和台地区や東部地区の皆さんからは、逆にチェックが入るぐらい厳しく見ていただきました。片時も忘れてはならない事です。今後も後輩、同輩議員にチェックする事を続けていきます。



## 西川せいしの「功罪」…自画自賛ですが…

先ず「罪」の方からお話しします。先輩から言われました。辞める時は必ず「後継者」を選んでからに下さい。今回の引退発表に「後継者」の紹介が来ていません。大変申し訳ありませんが、間に合いませんでした。不悪！このことは簡単に言えませんが、今後最善を尽くして後継者育成をお約束します。

「功」の方は、小さな声でお話しします。西川が流山に移り住んで半世紀経ちますが、市議員さんらが市民に

対して議会ごとの報告をする案内は、東部地区では聞こえてきたことはありませんでした。当然当方に関心もなかったのでしょう。しかし、立候補する時に皆さんに約束したことが「年4回の議会ごとに出来るだけ報告会を実施して、皆さんのご意見をお聞きします」でした。このお約束はきっちり果たし、市政と市議会を皆さんの身近に少しは感じて頂けるように努力したことでしょうか。改めて感謝申し上げます。

## 任期中に残念に感じたこと…市担当外の事項



世の中には当然、国・県・市・民間それぞれの役割と権利・義務があります。しかし議員活動の中でそれらの境界線で先に進めなくなってしまう事が多々ありました。

**(疑問1)**…「それは民間のことだから手は出せません」これは何度も聞きました。卑近な例では、①平和台・通称・飛地山の開発について。飛地山は市役所の南側の小高い丘と雑木林(緑地)でした。地権者が度々変わり、金繰りに行きずまって倒産・競売処理になり、それを買い取った業者が西側をマンション・東側をスーパーにする計画(それぞれ敷地面積6000㎡以上)を進めましたがいろいろな理由・思惑が交差してなかなか買い手が見つからず、その間にも地権者が変わり、いまだに丘を削り、木を伐採した後の平地のままで芝草が伸び放題です。初期の段階では競売後に価格が折り合えば市としては災害時の避難場所・緑の公園を想定しての購入案も議会が承認したのですが、高く売りたい業者とは相いれませんでした。新築物件の建設時の高さ制限が執行されるまで期間的な余裕を持たせたが間に合わず、マンション建設がより悪い条件となり、現在は戸建て計画に変更して売り出されているが動いていない。今からでも付近住民が感じる不安解消のために市が交渉に乗り出したらどうかという意見が多いのですが、「民民」には立ち入れないという事で先へ進んでいない物件であります。

**(疑問2)**…防災対策の中でも重要な案件としては、発災後も医療救護体制の整備計画は出来上がっていますが、これで十分か？何が欠けているか？という観点では、病院等の医療機関の管轄は「県」であり、市のチカラは及ばないということになっています。市内の救護所5カ所(中学校)に設置します。トリアージを行い重傷・重病患者は「市内救急告示病院」(東葛病院・流山中央病院・愛友会病院)へ、そのほかに「柏の葉北総病院・江陽台病院」の2病院が救護所の協力病院として受け入れています。しかし私が問題として取り上げた点は2件。

- ①強力な非常用電源設備は病院に整備されているか？
- ②その燃料は特別協定などで緊急時確保できているのか？

告示病院と柏の葉病院は設備OK。江陽台病院は小型発電のみで不足。燃料手配は個々に病院にはGSと話してまとめてほしいということだが、そもそも流山市にはメーカー系列の大型GSはないので、どうなるかは不透明ということで各病院の交渉力に懸かっていることであつた。これに関しては病院の管轄は「県」…市もこれ以上は関われないというスタンスであつた。

上記2例ともこれ以上は市としてこれ以上の指導なり強制は出来ませんという事です。克服できるのは市民パワーで署名活動を含め「請願・陳情」で市にアピールすることです。議会で審議し、採択されれば執行部に検討させ、または上部機関へ送付します。

## 最後の一般質問をしました

去る2月21日(木)一般質問日3日目の3番目に立ちました。

議員になった時から8年間で32回機会があるうち、29回の通算156件(資料2参照)の一般質問をしました。当選前の有権者とのお約束は、毎議会に毎回一般質問すること、年4回南部(平和台福祉会館)と東部(東部公民館+向小金福祉会館)の両会場かどちらか一つ)で、それぞれ報告会を開いてきました。両地域とも30~50名ぐらいお集まりいただき、時には市長にも来ていただき、意見交換をするなど皆さん熱心に参加されていました。

### ■災害・震災対策について(通算34件)

今回の一般質問は、最初の定例会(平成23年6月開催…東日本大震災直後)でしたが、大震災の直後であつた機会をとらえて、災害・震災対策10の提言を市長以下執行部に改善・強化・新規対応などを質しました。

このうちの5件について8年後の現在、準備・対応・進歩がどの程度出来ているのかを質しました。「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」「熊本地震」等大きな地震などの災害が続いてきている日本で、対応策は出来ているか、特に「地震関連死ゼロ」への心構えを強く質し、地道

な準備活動がいかに大切か、毎年恒例のように起こることではないのでやはり注意が行き届かない・持続されていない点が散見されるのは困りものですね。今後の対応に手抜き無きように強く要望しておきました。

### ■高齢者対策について(通算61件)

高齢者対策・介護要員は足りているのか、将来を見越して質しました。

千葉県森田知事が12月にベトナムを訪問し、介護要員養成スクールを視察して気立ての優しいベトナム若人に、「準備をして日本に来て勉強してください」と話しか

けておられたようです。12月の新聞に掲載されており、同行した日本の介護事業者も「しっかり勉強しているのを見て安心」と前向きに捉えていました。

本市も早めの受け入れ態勢づくりを始めた方が良く意見を申して締めくくりました。自分も後期高齢者の世代です。介護を受けなければならない時もすぐ来るかもしれません。早めの対応を期待して要請しておきました。ベトナム人は穏やかな民族です。

Keep Finger Cross!!(期待する)と言います。



### 本市の「災害時協力井戸」の設置状況はこれでよいのか?

平成24年5月のホルムアルデヒド水質事故で、十分処理できていなかった廃液が利根川水系に流れ込んだために一時市内の浄水場が採水を中止して給水作業をやめてましたが。そのため付近住民は浄水場に貯水されていた汚染されていない水を長い列を作って並び、井戸水を持ち帰ったことを覚えておられる方もおられるでしょう。

今回は、そういう際に飲用水としての利用は難しくても、生活用水として使用可能な個人の井戸水を災害時に住民に広く給水してあげられる「災害時協力井戸」の登録状況を調べたところ、平成21年からの事業であるにもかかわらず、東日本災害時の翌平成24年と注意を喚起された平成30年には、市内北部・中央部では40件以上の登録がなされたが、その間平成28・29年はゼロ登録という状況と市の東部・南部の各地域で関心持たれていない地域(場合によっては使用に耐えられる井戸の数が少ない)もあるやに見えて、東部4カ所・南部12カ所と市内の井戸設置に凸凹ができてきているという状況を発見した。

執行部にはこのムラを排除して全地域そこそこの登録井戸確保できることを示してほしいと強く注意を喚起しました。

### 今年は、9月にワールドカップ・ラグビー、来年は2020東京オリ・パラの年です。

昨年9月にオランダの女子バレー代表が本市で1週間ほど合宿を張り、市内の女子中学生チームに模範バレーを見せてくれました。世界バレーボール選手権大会の結果は世界4位、日本は6位、優勝はセルビアでした。西川も中学から大学・実業団まで続けた元バレーボール選手でした。その合宿の記事は前号の「ほねぶとレポート」に掲載しましたが、覚えておられますか??

さて今回は2月15日から大阪で「国際親善女子車いすバスケットボール大会」(通称・大阪カップ)が開幕。オランダ・イギリス・オーストラリアという世界の強豪が参加しました。それに先立つ8・9日に流山でオランダチームとの強化試合で大きく成長し、15日からの通称・大阪カップでの日本チームは、対イギリスに54-60と惜敗、対オランダ54-64で敗戦、オーストラリア戦は56-43で圧勝。結果は優勝オランダ・2位:イギリス・3位:日本・4位:オーストラリアでした。

車いすバスケットでは2020東京パラリンピックの花形競技を楽しんで下さいとのことであった。「面白いのは各選手で体を動かせる範囲により4.5点から1.0点まで」持ち点があり、メンバー編成によって戦略も大きく変わるところです」と説明を受け、車のぶつかり合いは迫力があり、アツという間に虜になるはずと言われました! あなたもTRYしてください。

2019 International Women's Wheelchair Basketball Friendship Games OSAKA CUP  
国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会  
2/15 Fri ▶ 17 Sun  
丸善インテックアリーナ大阪 (大阪府中央体育館)  
世界一のオランダに挑む大阪決勝!



■一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟 ホームページ  
(<https://www.jwbfg.jp/>)

